

平成27年度図書館事業評価結果について

河内長野市立図書館（図書館）では、平成26年度から「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年12月19日文科科学省告示）に基づき、図書館サービスその他図書館運営の維持・向上を図るため行った平成27年度の図書館の事業評価を公表します。

図書館は、平成26年2月15日付け河内長野市図書館協議会（図書館協議会）の答申を受け「河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針」（基本的運営方針）を平成26年3月31日付けで決めました。平成26年度から基本的運営方針に基づき図書館サービスその他図書館の運営に関する指標を選定、指標に係る目標を設定するとともに、年度毎に事業計画を策定し、目標及び事業計画の達成状況等に関し自己点検及び評価を実施、その結果を「河内長野市立図書館事業評価」として公表します。

1. 点検及び評価の目的

- ・ 基本的運営方針に基づいた運営がなされていることを確保し、事業水準の維持・向上を図ります。
- ・ 点検及び評価は各年度の事業計画に対し実施します。
- ・ 点検及び評価実施結果は速やかに公表します。

2. 評価の方法等

基本的運営方針に基づき策定した事業計画の達成状況を指標並びに指標に係る目標等により3段階の評価基準で点検・評価を実施します。また、図書館協議会に達成状況等評価（総評）を得ます。

実績は1月末現在の数値に3月末までの推計を含めて算出します。

- ・ 評価基準（端数切捨て）
A…達成した（90%以上） B…ほぼ達成した（89%～61%）
C…達成できなかった（60%以下）

河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針

図書館法の精神に基づき、誰もが気軽に安心して利用できる市民生活に役立つ図書館をめざして、市民の皆さんとともに積極的な図書館運営を進めるため、河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針をつぎのとおり定めます。

- ・ 図書館機能の充実を目的に児童サービスやレファレンスサービスを始めとする各種サービスの向上を図ります。
- ・ 「読書のまち河内長野」実現を目的に図書館や公民館図書室の資料を整備充実し、その利用を促進します。
- ・ 郷土歴史資料や行政資料の収集保存を進め、その普及啓発と活用を図ります。
- ・ 読書活動を推進し、子どもたちや市民の読書習慣の定着化を図ります。
- ・ 図書館を利用することで市民自らの課題が解決できるよう、図書館資料の活用を促進します。
- ・ 市民の協力を得てより良い図書館サービスを提供するため、ボランティア活動の機会、場所の提供やボランティア講座の実施に努めます。
- ・ 図書館司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため、継続的・計画的な研修の実施等に努めます。
- ・ 安全で安心な図書館の読書環境を維持します。

平成26年3月31日
河内長野市立図書館

平成27年度河内長野市立図書館事業評価結果

1. 実績、自己評価、自己評価説明（点検）

- ① 市民の資料要求に応え、さらにその要求を広め高めて行くため、良質な資料を収集・提供します。

指標…入館者数、貸出冊数

目標…入館者数	53万人	実績…入館者数	520,365人
貸出冊数	100万冊	貸出冊数	1,001,554冊

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

入館者数は目標を達成（98%）していることから自己評価をAとしました。今後とも多数来館していただけるよう魅力ある良質な資料構成を目指して、資料の更新と充実が必要と考えています。

貸出冊数は目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。今後とも多数来館していただけるよう魅力ある良質な資料構成を目指して、資料の更新と充実が必要と考えています。

- ② 地域文庫、幼稚園・保育所及び放課後児童会等への団体貸出の利用を促進するため、資料集配送を継続実施します。

指標…配送件数、配送冊数

目標…配送件数	150件	実績…配送件数	182件
配送冊数	5,000冊	配送冊数	8,710冊

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標の配送件数については121%、配送冊数については174%を達成していることから自己評価をAとしました。

前年度に比較して回数では42件の増、冊数では約710冊の増となっています。要因としては、放課後児童会の配送回数の増加、放課後児童会の入会児童の増加146人（平成26.5月現在801人⇒平成27.5月現在947人）などによって冊数が増加したと考えられます。

今後は、子どもたちの読書環境が整えられるよう特に小学校・中学校への配送数が増加するように学校、学校図書館司書との連携をより強化する必要があります。

- ③ 市民の身近な施設としてのサービス機能の充実を図るため、年始特別開館の継続実施（1月2日・3日）など利便性の向上に努めます。

指標…特別開館入館者数（2日間合計）、図書館年度間開館日数、図書館年度間開館時間数（年度合計）

目標…特別開館入館者数（2日間合計）	1, 800名
図書館年度間開館日数	331日
図書館年度間開館時間数	3, 468. 5時間
実績…特別開館入館者数（2日間合計）	1, 802名
図書館年度間開館日数	332日
図書館年度間開館時間数	3, 479. 0時間

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

各指標とも目標の100%以上を達成していることから自己評価をAとしました。

年始特別開館については、平成26年度（1, 659名）を143名上回る1, 802名となりました。

開館日数・時間数について、12月広報紙への休館日の誤記載があり、窓口での混乱を避けるため1日臨時開館しました。また蔵書点検期間を平成26年度と同様に10日間から8日間とし開館日を2日間拡大しています。

- ④ メールマガジンの発信やレファレンスデータベースの公開などITを活用した図書館サービス機能の充実をすすめます。

指標…オンラインデータベース利用者数

目標…オンラインデータベース利用者数 300名

実績…オンラインデータベース利用者数 238名

◎自己評価 B

【自己評価説明（点検）】

目標の79%を達成していることから自己評価をBとしました。

利用者（のべ）人数は減少したものの、利用者層の広がりは見られており、今後ともオンラインデータベースの各種講習会を開催するなど、より活用されるようPRを行います。

- ⑤ 市内全域への図書館サービス提供のため、図書館と公民館、自動車文庫等のネットワークの維持・継続や、全体の蔵書整備計画の策定を行います。

指標…図書館と公民館との相互貸借冊数、蔵書整備計画の策定

目標…図書館と公民館との相互貸借冊数49, 000冊

蔵書整備計画を年度末に策定

実績…図書館と公民館との相互貸借冊数53, 684冊

蔵書整備計画を年度末に策定済み

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

図書館と公民館との相互貸借冊数について、目標を達成（110%）していることから自己評価をAとしました。

図書館ネットワークを活用し、予約資料の受け取り館を図書館から最寄りの公民館図書室に替えられる方が目標より10%増加しています。

蔵書整備計画を年度末に策定済みであり、目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。

今後とも多数来館していただけるよう魅力ある良質な資料構成を目指して、計画的な資料の更新と充実が必要と考えています。

⑥ 郷土歴史資料の普及啓発と活用を図るため、検索ツールの整備や関連講座及び資料の展示を行うとともに保存修復を行います。

指標…開催講座数

目標…開催講座数 6講座

実績…開催講座数 6講座

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。

郷土歴史資料の普及啓発と活用を図るため古文書講座（初歩の初歩3コマ・入門編3コマ）各1講座、図書館歴史講座2講座、文化遺産講座2講座（計6コマ）を開催、いずれの講座も受講者アンケートでは高く支持（満足度90%）されていることから、今後はその人気を郷土資料活用へとつなげていきたいと考えています。

また図書館資料の活用として講座会場での出前貸出（8冊）を実施しています。

⑦ 生涯学習機会の拡大のため、他の公立図書館等との連携を一層図り、広域相互利用を実施します。

指標…対象自治体数

目標…対象自治体数 14自治体

実績…対象自治体数 14自治体

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。

市民の生涯学習機会の拡大のため今後とも広域相互利用を実施します。

（14自治体：大阪市、東大阪市、八尾市、松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、富田林市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村、橋本市、五條市）

また、平成25年度、平成26年度と広域相互利用を締結している隣接市の図書館（富田林市）と連携して「二市図書館連携講座」を開催。平成27年度は大阪狭山市も含め「三市図書館連携講座」として開催し、学習機会を拡大しました。

- ⑧ 「河内長野市第2次子ども読書活動推進計画」（平成23年度～平成27年度）に基づき関係機関との連携を図りながら子どもの読書活動を推進します。

指標…18歳以下登録者率

目標…18歳以下登録者率 39%（平成24年度実績を維持）

実績…18歳以下登録者率 38%

- ◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（97%）していることから自己評価をAとしました。

学校向け「えほんのひろば」巡回の継続実施や学校図書館が実施する「読書ノート」への参画、小学校から公民館施設見学の際に公民館図書室で利用者カードの新規登録実施など子どもの読書活動を促進し、18歳以下の登録者数を維持・向上に取り組みます。

- ⑨ 子どもたちや市民の読書活動の推進を図るため、地域、学校やボランティア等と連携し、おはなし会などを実施します。

指標…おはなし会等開催回数、おはなし会等参加者数

目標…おはなし会、おはなしウォッチング、クリスマス会

合計開催回数86回 合計参加者数 690名

実績…おはなし会、おはなしウォッチング、クリスマス会

合計開催回数84回 合計参加者数 767名

- ◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成していることから自己評価をAとしました。

（おはなし会、おはなしウォッチングやクリスマス会の回数が目標に対し達成度98%、参加者数の達成度111%）

4か月児健診でのPR、ミニコミ誌や関係機関（あいつく）との連携を通じて参加人数の向上に取り組みます。

- ⑩ 子どもたちに絵本に親しむ機会を提供するため、学校や放課後児童会などで「えほんのひろば」の巡回展を実施します。

指標…実施校数

目標…幼稚園 1園、小学校 13校、中学校 3校

実績…幼稚園 1園、小学校 13校、中学校 4校

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（105%）していることから自己評価をAとしました。

このほかにも、くろまるキッズ全員集合、美加の台文化祭、子育て・孫育てフェスタで「えほんのひろば」を出展し、大阪暁光高校での開催を支援しました。

今後は、運営方法やプログラム内容についても検討を加えながら継続拡大できるよう努めます。

- ⑪ 図書館資料の利用を促進するため、生活に役立つ図書館講座や児童を対象とした利用者教育講座（資料の探し方等）を開催します。

指標…開催講座数

目標…開催講座数 5講座

実績…開催講座数 10講座

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（200%）していることから自己評価をAとしました。

- ・データベース（法情報、新聞記事検索）講習会2講座
- ・図書館マスター4講座
- ・生活に役立つ図書館講座2講座
- ・図書館連携事業（教育費、創業）2講座

今後とも図書館資料の利用促進のため、地域との連携を取りながら様々なアプローチの講座を開催します。

- ⑫ ボランティア活動の充実を支援するため、読み聞かせボランティア講座やスキルアップ講座を実施します。

指標…開催講座数

目標…開催講座数 2講座

実績…開催講座数 3講座

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（150%）していることから自己評価をAとしました。

「すぐに役立つ読み聞かせボランティア講座（5回）」

「スキルアップ講座（3回）」

「フォローアップ講座（1回）」と3講座を開催

ボランティア活動の充実を支援するため継続して実施します。

- ⑬ 市民の理解と協力を得て図書館の良好な読書環境の維持、利用マナーの向

上を図ります。

指標…マナー向上キャンペーンの実施回数

目標…マナー向上キャンペーンの実施回数 2回

実績…マナー向上キャンペーンの実施回数 2回

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。

資料の水漏れ防止キャンペーン（貸出時に声かけやチラシ配付）を実施しました。

⑭ 図書館司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため、継続的・計画的な研修の実施等に努めます。

- ・文部科学省主催 地区別研修（近畿）
- ・近畿公共図書館協議会主催研修
- ・大阪府教育委員会主催研修（司書セミナー）

指標…研修（館外）数、研修参加者数、利用者の職員対応満足度

目標…研修（館外）数 9講座

研修参加者数 22名（延べ）

利用者の職員対応満足度 5段階で平均4以上（図書館アンケート）

実績…研修（館外）数 11講座

研修参加者数 19名（延べ）

利用者の職員対応満足度 5段階で平均4.5（図書館アンケート）

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標に対し、研修数は122%、参加者数は86%、利用者の職員対応満足度では112%をそれぞれ達成しており、平均して自己評価をAとしました。

司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため継続的・計画的な研修の実施等に努めます。

- ・文部科学省主催 地区別研修（近畿） 3講座 3人受講
- ・近畿公共図書館協議会主催研修 2講座 2人受講
- ・大阪公共図書館協会主催研修（司書セミナー） 6講座 14人受講

図書館アンケートによる利用者の職員対応満足度は、5段階で平均4.5であり、さらに職員の待遇の向上に努めます。

⑮ 危機管理マニュアルの整備、職員に対して防火訓練をはじめAED講習や防犯講習等を実施します。

指標…防火訓練等実施回数

目標…防火訓練等実施回数 5回

実績…防火訓練等実施回数 7回

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

目標を達成（140%）していることから自己評価をAとしました。

複合施設にあることを踏まえ関係機関との連携を図り利用者の安全安心に努めます。

実施内容（実施日）

- ・ 始業点検 危機管理マニュアル研修 7/7
- ・ 自動車文庫出発手順研修 8/4
- ・ 大阪880万人訓練 予行演習 9/1
- ・ 大阪880万人訓練職員訓練 9/4
- ・ 救命講習 10/6
- ・ 自衛消防訓練 11/9 2/9

2. 図書館協議会による達成状況等評価（総評）

図書館事業に係る図書館の自己評価並びに自己評価説明（点検）を踏まえ実施した達成状況等評価（総評）は以下のとおりです。

平成28年3月31日 河内長野市図書館協議会 会長 佐藤 敏江

記

1. 事業計画に基づき設定した目標を概ね達成している。今後とも事業の適正化、図書館サービスの向上に努められたい。
2. 自己評価において「B」となったものについては、来年度において評価が「A」となるように努めるとともに、目標設定が実現及び持続可能なものであるかを検討し、次年度の目標設定をされたい。また、達成度100%を超えているものについて、よりサービスの向上となるよう目標設定を再考されたい。
3. 設定されている指標及び目標が事業の成果を的確に評価できているものであるか、状況の変化に対応できているかを含めて検討していただきたい。
4. 総評並びに下記に示す各委員からの意見を参考に図書館事業の充実に努められたい。

【図書館協議会委員の意見】

図書館事業に係る図書館協議会委員の意見は次のとおりです。(図書館協議会会議での事業に係る意見の要旨を掲載しています。)

- 1 . . . ①の計画にある「良質な資料の収集・提供」の指標例として、「日本図書館協会が出している判定基準になるようなリストの本を100%カバーしています」というのはどうか。
 - ④事業評価は数値だけで追っていくと、いつか下がる時や停滞する時が来るという難しい問題がある。かといって質の表記もしにくい。ITを活用した図書館機能サービスの充実については、データベースの利用者数だけでなく、構築内容も評価を。
 - ⑩指標の「えほんのひろば」の小学校の実施校数が去年と同じでも、異年齢交流の新しい展開に保護者から反響があったことは、評価のポイントになる。
(全体) 全部の項目をかさ上げするのではなく、例えば「子どもの絵本」とか「郷土資料」とか年度ごとに重点を置くやり方もある。

- 2 . . . ①の計画にある「良質な資料の収集・提供」とはどう判定するのか。
 - ⑥の計画にある「郷土歴史資料の保存修復」を判定する指標がないので、修復件数を指標に設けてはどうか。
 - ⑩の「えほんのひろば」について参加者数も指標に入れておけば、さらに評価の角度が複数になる。
 - ⑪の事業計画には「生活に役立つ図書館講座」と「児童を対象とした利用者教育講座」がある。指標も講座ごとに2つに分けて、人数も指標にしてはどうか。
 - ⑭の指標のように利用者の職員対応満足度が100%に近づいている場合は、きめ細かく項目を分けるなど工夫し、改善するための課題が見つかるようなアンケートの実施を。
(全体) 図書館運営を指定管理者ではなく市直営でやっているいいところは、この事業評価のように自主的に長期的なスパンでいいものに上げていこうとする緻密な取り組みであり、市民の皆さんにも伝わり評価されると思います。

- 3 . . . ③の指標「図書館年度間開館日数」は、達成度100%で当たり前ではないか。年度によって重点的に力を入れる項目と、維持・継続という目標があってもいいのではないか。
 - ④の指標を「オンラインデータベース利用者数」としているが、構

築した中身の充実も指標にしてはどうか。

⑥の計画にある検索ツールの整備とは何か。

⑧の指標を「18歳以下登録者率（平成24年度実績を維持）」としているが、利用者数はどうか。

4 . . . ⑩について、小山田小学校での異年齢交流による「えほんのひろば」では、高学年の子どもたちは絵本の内容に感動したという感想や低学年の子どもたちはお兄さんお姉さんに読んでもらったことが心に残るようだったとのことで大変評価されている。

⑩について、学校が小中連携という形をとっていますので、中学校1年生と小学生という組み合わせで「えほんのひろば」があってもいいのではないか。

5 . . . ⑨の指標内容の「おはなしウォッチング、夏休みおはなし会、くろまるキッズのおはなし会」は大勢の子どもたちが集まっている一方、図書館での定期的なおはなし会では各会なかなか参加者が集まらなくて苦しんでいる。

どうして集まらなくなっているのかを考えることも、質の向上という意味では必要ではないか。開催曜日、時間がこれでいいのか、おはなし会の内容そのものがこれでいいのかとか考えていけたらと思います。

⑩について、小学校1年生と6年生の「えほんのひろば」にボランティアで参加しました。6年生の子どもたちがとてもいい表情をしていて、1年生から読んでほしいを求められることがとてもいい経験になっているようでした。絵本がない環境にこそ「えほんのひろば」は必要だということで、中学生、特に受験生にも「えほんのひろば」の実施を。

⑩中学校の「えほんのひろば」の会場におはなし会とブックトークを持っていけないか検討を。

⑩について河内長野市内には市立よりも私立の幼稚園が多い。幼稚園への「えほんのひろば」実施の拡大については、公民館などを会場にしてその地域の幼稚園に広報し、親子で来てもらうのも効果的ではないか。

6 . . . ⑩の「えほんのひろば」の指標のうち、中学校については目標を4校としているが、中学校は7校あるので4校にとどまることなく努力を。